

岡山県感染症週報 2023 年第 36 週 (9 月 4 日～9 月 10 日)

9 月 24 日～30 日は「結核予防週間」です。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、
「うつらない」「うつさない」行動を心がけましょう

詳細は「[感染拡大防止に向けた知事メッセージ\(令和 5 年 8 月 10 日\)](#)」([新型コロナウイルス感染症対策室](#))を参照ください。

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

◆2023 年 第 36 週 (9 / 4 ～ 9 / 10) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 34 週	5 類感染症	梅毒	1 名 (30 代 男)
第 35 週	2 類感染症	結核	1 名 (50 代 男)
	5 類感染症	梅毒	3 名 (20 代 女 1 名、30 代 男 1 名、40 代 男 1 名)
		百日咳	1 名 (30 代 女)
第 36 週	2 類感染症	結核	3 名 (60 代 男 2 名、80 代 男 1 名)
	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2 名 (O157: 40 代 女 1 名、50 代 女 1 名)
	4 類感染症	日本紅斑熱	1 名 (70 代 男)
		レジオネラ症	2 名 (50 代 男 1 名、80 代 女 1 名)
	5 類感染症	梅毒	5 名 (20 代 女 1 名、30 代 男 1 名・女 1 名、40 代 男 2 名)
		百日咳	1 名 (10 代 女)

効果的な場面でのマスク着用！
熱中症には気を付けつつ、
暑くても、こまめに換気しよう！



© 岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ/COVID-19 定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で 1,466 名 (定点あたり 17.45 人) の報告がありました。

○インフルエンザは、過去 10 年間の同時期と比較して多くなっています。

【第 37 週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 4 名 (O26: 40 代 女 1 名、O103: 10 代 女 1 名、60 代 女 1 名、O111: 10 代 男 1 名) の発生がありました。

1. [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で 1,466 名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 15.30 → 17.45 人)。詳しくは「[★新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ「[『新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報』](#)」をご覧ください。
2. [腸管出血性大腸菌感染症](#) は、2023 年第 36 週に 2 名の報告があり、2023 年の累計報告数は 71 名となり、2022 年の年間報告数: 66 名を既に超えています (2022 年の同時期: 46 名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[『腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!』](#)」をご覧ください。
3. [日本紅斑熱](#) は、2023 年第 36 週に 1 名の報告があり、2023 年の累計報告数は 9 名となり、2022 年の年間報告数に並びました (2022 年の同時期: 6 名)。ダニが媒介する感染症として、他に [重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#) や [つつが虫病](#) などがあり、2023 年は第 36 週までに SFTS が 3 名、つつが虫病が 1 名の報告がありました。これらは、病原体を保有するマダニまたはツツガムシに刺咬されることで感染します。また、SFTS に関してはイヌやネコからの感染も報告されています。ダニに刺咬されないための予防対策等については [コラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう！」](#) をご覧ください。
4. [梅毒](#) は、2023 年第 36 週に 5 名の報告があり、2023 年の累計報告数は 201 名となり、1999 年の感染症法施行以降で最多であった 2022 年の年間報告数 197 名を超えました (2022 年の同時期: 135 名)。2023 年の全国の発生状況は、第 35 週までの累計報告数が 10,110 名 (2023 年 9 月 6 日時点) であり、最多であった 2022 年 (年間報告

数：13,226名（2023年3月18日時点）の同時期：8,449名を上回っています。今年は全国、県内共に、前年を大きく上回る勢いで報告があり、注意が必要です。また、2023年の全国の先天梅毒の発生が、第35週までの累計報告数で27名となり、1999年以降で最多の年間報告数であった2019年の23名を超えています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[梅毒について](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は別掲載）

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★★	RSウイルス感染症	▲	★
咽頭結膜熱	▲	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	★
感染性胃腸炎	▲	★★	水痘	▲	★
手足口病	▲	★	伝染性紅斑	▲	
突発性発疹	▲	★	ヘルパンギーナ	▲	★
流行性耳下腺炎	▲	★	急性出血性結膜炎	▲	
流行性角結膜炎	▲	★	細菌性髄膜炎	▲	
無菌性髄膜炎	▲	★	マイコプラズマ肺炎	▲	
クラミジア肺炎	▲		感染性胃腸炎（ロタウイルス）	▲	

【記号の説明】 前週からの推移： ▲：大幅な増加 ▲：増加 ▲：ほぼ増減なし ▲：減少 ▼：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減
 発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

～ ダニの活動が活発になる時期です ～ ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）※、つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋（3月～11月）にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤（マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの）を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。
 体調不良の動物や野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [日本紅斑熱とは（国立感染症研究所）](#)
- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）](#)
- ⇒ [ツツガムシ病とは（国立感染症研究所）](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること（国立感染症研究所）](#)



吸血後の
フタトゲチマダニ♀



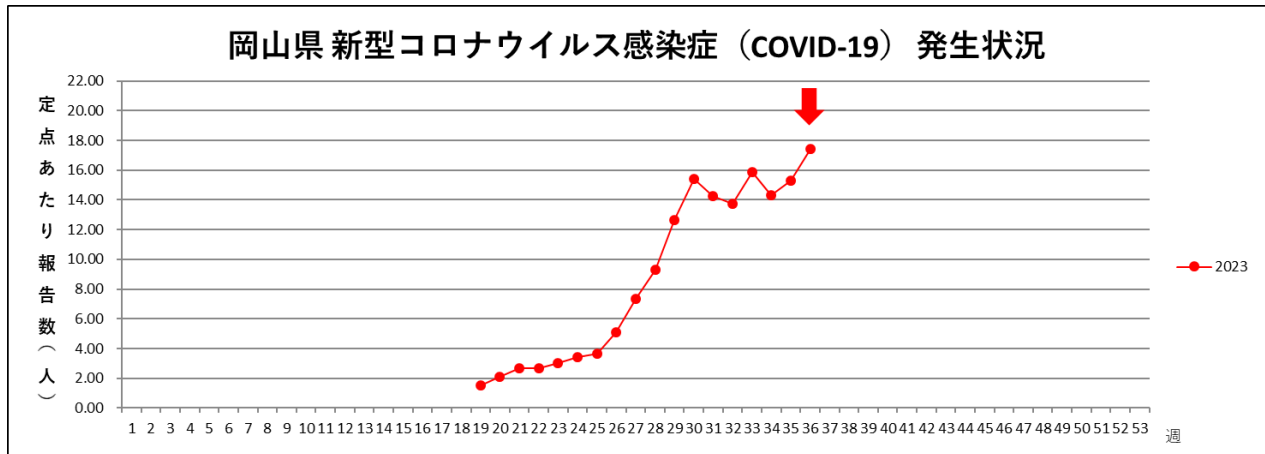
ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 画像

☆新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報

岡山県の流行状況（第 36 週（9/4～9/10））

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 1,466 名（定点あたり 17.45 人）の報告がありました（84 定点医療機関報告）。



※ 2023 年は定点把握対象へ移行した第 19 週から表示しています。

※ 全数把握時のデータは[こちら](#)

※ 2022 年 10 月 3 日（2022 年第 40 週）～2023 年 5 月 7 日（2023 年第 18 週）までの全数把握の患者数をもとに、2023 年 5 月 8 日以降の定点医療機関からの報告患者数を抽出して集計した患者数の推移（参考値）はこちらをご覧ください。→ [全国](#)（厚生労働省 HP）、[岡山県](#)（新型コロナウイルス感染症対策室 HP）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 1,466 名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり 15.30 → 17.45 人）。地域別では、備中地域（28.33 人）、倉敷市（23.44 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年代別では、10 代以下、30 代および 80 代以上で前週から増加しました。

基本的な感染防止策（効果的な場面でのマスク着用、手洗い等の手指衛生、換気、3 密（密閉・密集・密接）の回避、健康的な日常生活、ワクチン接種、体調不良時の備え）に留意し、自主的な判断により実施しましょう。

◆ゲノム解析の結果（全国の情報（岡山県の情報も含む））はこちら
[『SARS-CoV-2 変異株について』（国立感染症研究所）](#)

●新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とは

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m 以内）で感染しますが、エアロゾルは 1m を超えて空気中に留まりうることから、換気が不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。

●症状

日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が 2～3 日と短く、また、発症前からウイルスを排出し、感染源となることが分かっています。上気道で増殖しやすい特性から、従来株（デルタ株等）に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（21 週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっていますが、ワクチン接種が重症化を予防する可能性があるとしてされています（[日本における COVID-19 妊婦の現状（日本産科婦人科学会、2022 年 6 月 7 日付報告）](#)）。

なお、罹患後症状（いわゆる後遺症）については、以下をご覧ください。

- ・[罹患後症状のマネジメント・第 2.0 版（2022 年 10 月 14 日発行）](#)
- ・[『新型コロナウイルス感染症罹患後も続く症状（後遺症）にお悩みの方へ』（岡山県ホームページ）](#)

●発生動向の把握方法について

これまでは全ての患者を把握する『全数』把握（2022 年 9 月 26 日以降は簡略化）の方法でしたが、2023 年 5 月 8 日（第 19 週）以降は、指定した医療機関（岡山県の定点医療機関数：84（内訳：小児科定点 54、内科定点 30））において 1 週間に診断した患者数を把握する『定点』把握の方法へ変更となりました。

基本的な感染症対策！
ワクチン接種も大切！



© 岡山県「ももっち」

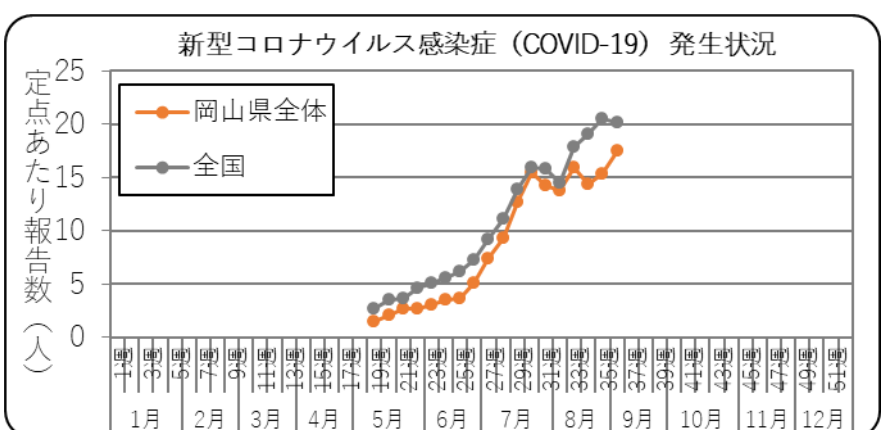
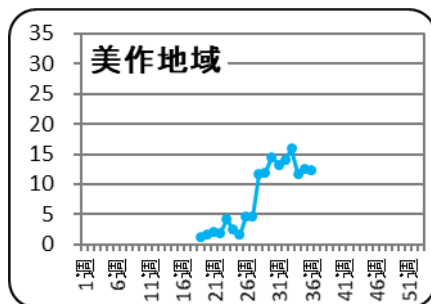
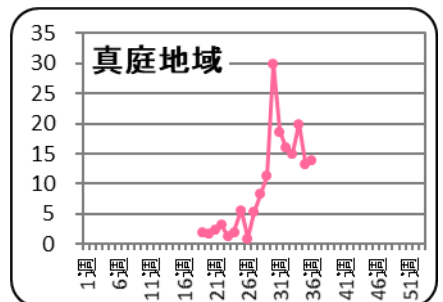
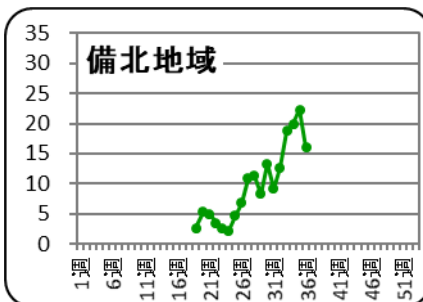
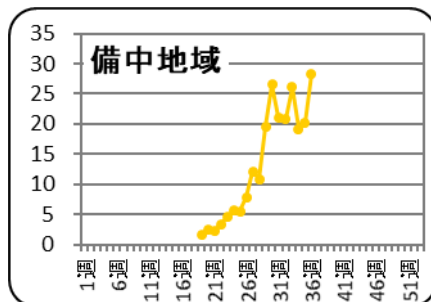
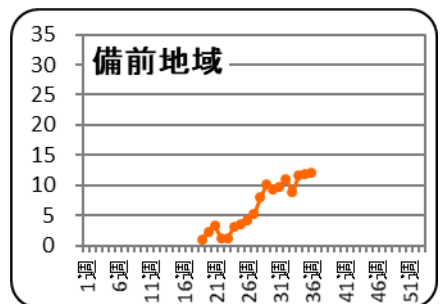
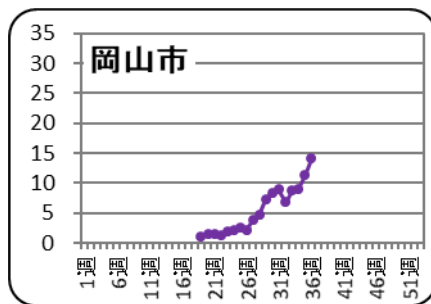
1. 地域別発生状況

地域名	発生状況（人）		推移	地域名	発生状況（人）		推移
岡山県全体	患者数	1,466	▲	備 中	患者数	340	▲
	定点あたり	17.45			定点あたり	28.33	
岡山市	患者数	310	▲	備 北	患者数	96	▲
	定点あたり	14.09			定点あたり	16.00	
倉敷市	患者数	375	▲	真 庭	患者数	42	➡
	定点あたり	23.44			定点あたり	14.00	
備 前	患者数	180	➡	美 作	患者数	123	➡
	定点あたり	12.00			定点あたり	12.30	

【記号の説明】 前週からの推移 ▲：大幅な増加 ➡：増加 ➡：ほぼ増減なし ➡：減少 ▼：大幅な減少

大幅：前週比 100%以上の増減

増加・減少：前週比 10～100%未満の増減



○全国の発生状況

全国集計 2023 年第 36 週速報値（2023 年 9 月 13 日時点）によると、全国の定点あたり報告数は 20.19 人となり、前週とほぼ同数でした。

[新型コロナウイルス感染症の国内発生状況等について（厚生労働省）](#)

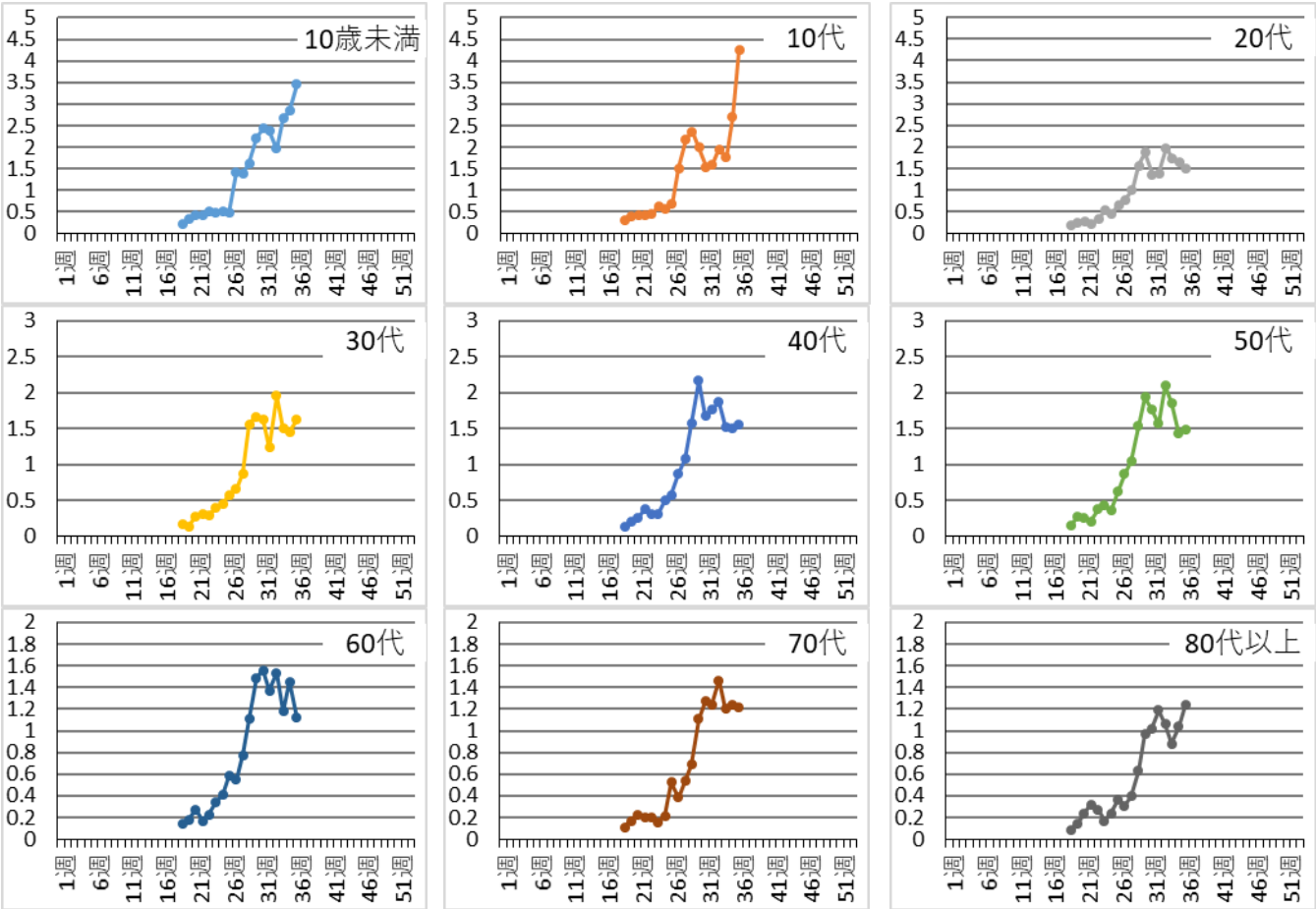
2. 年齢別発生状況

○第 36 週 （単位：人）

2023年第36週（9月4日～9月10日） （単位：人）

合計	0-3歳	4-6歳	7-9歳	10-14歳	15-19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
1,466	86	84	120	205	153	126	136	131	125	94	102	104

○年齢階級別の定点あたり報告数の推移（2023 年第 19 週～）



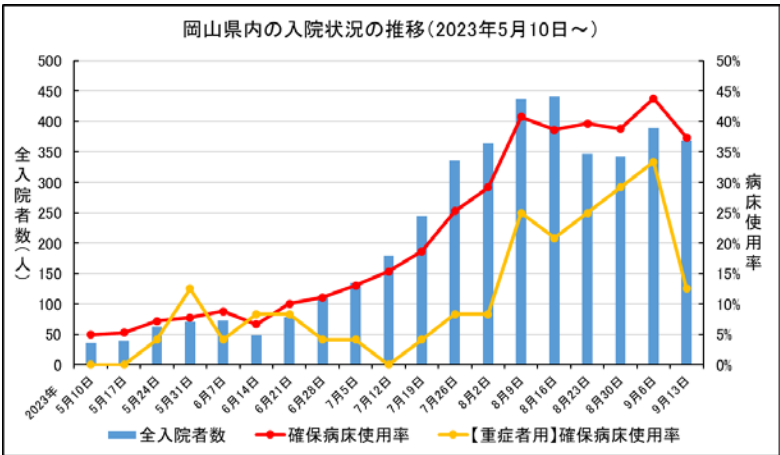
📢 留意点：年齢階級別の報告数の考え方について

定点医療機関は、小児科定点が内科定点に比べて多く選択されているため、報告数は小児に偏ります。一方で、年齢階級別の報告数により、経時的な流行全体の傾向（トレンド）と水準（レベル）の把握および年齢階級ごとにおける流行の傾向と水準を把握することができます。

3. 入院状況

2023年9月13日時点

	全入院者数	確保病床使用率	
			重症者用
	369人	37.4% 210床/ 562床	12.5% 3床/ 24床
(参考) 前週	389人	43.8% 246床/ 562床	33.3% 8床/ 24床
前々週	342人	38.8% 218床/ 562床	29.2% 7床/ 24床



＊子どもの予防接種を確実に！＊



厚生労働省リーフレットより

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。

接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。

予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

[遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診（厚生労働省）](#)
[予防接種スケジュール（国立感染症研究所）](#)

風しんの抗体検査（無料）を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群（CRS）※の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます（岡山県健康推進課）](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています（**2025年3月31日まで**）。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに感染すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

**3年間延長
されます！**

**岡山県の2019年4月～2023年5月の風しんのクーポン
使用実績(抗体検査)は、34.0%と未だに低い状況です！
CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を
受けましょう！**

[風しんの追加的対策について（厚生労働省）](#)
[風疹に関する疫学情報（国立感染症研究所）](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト（日本産婦人科医会）](#)



© 岡山県「ももっち・うらっち」

9月24日～30日は『結核予防週間』です。

～ いまも1日平均28人が結核と診断されています。(結核予防週間標語) ～

結核は過去の病気ではありません。日本では今でも年間 **10,000 名以上** の新しい患者が報告され、**1,600 名以上が命を落としている** 重大な感染症です。結核患者の多くが高齢者で、新たに結核患者として登録される方のうち **70 歳以上の方の割合が約 6 割** に上っていますが、若年層(特に 20 代)で外国生まれの患者の登録が多いことが注目されます。

毎年 **9 月 24 日～30 日** は「**結核予防週間**」です。今一度、この機会に結核について理解を深めましょう。岡山県では、各保健所での啓発や相談など各種活動に取り組んでいます。

結核についてのご相談は、管轄の保健所へ → [岡山県保健所管轄区域案内\(厚生労働省\)](#)

たとえば、このようなことに心当たりはありませんか？



- ☑ 痰のからむ咳が **2 週間以上** 続いている。
- ☑ 微熱・身体のだるさが **2 週間以上** 続いている。



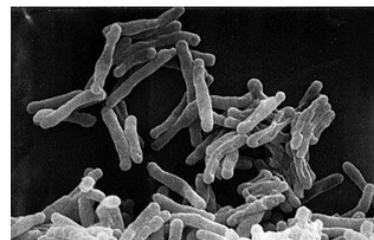
このような症状が続いたら、**結核**かもしれません。
早めに医療機関を受診し、**いつもの風邪と違うところ**を医師に伝えましょう。

注) 高齢者の方は典型的な症状が出ない場合もあります。定期的な健診が重要です。

[「結核 \(BCG ワクチン\)」](#) (厚生労働省)

【結核とは】

結核菌が体の中に入ることによって起こる感染症です。患者のくしゃみや咳の際に、体外に排出された結核菌が空気中に長時間漂い、それを周りの人が吸い込むことによって感染します(飛沫核感染)。感染してもほとんどの場合は免疫で抑えられますが、吸い込んだ結核菌の量が多かったり、免疫が低下している場合は発病することがあります。多くの場合、肺結核として発症し、咳、痰、微熱が典型的な症状です。胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振などを伴うこともありますが、初期には無症状のこともあります。肺以外のリンパ節、腎臓、骨、腸、脳など様々な臓器に病巣を作ることがあります。



結核菌の電子顕微鏡写真:公益財団法人
結核予防会結核研究所疫学情報センター
ホームページより

【結核の予防接種や健診を受けましょう】

乳幼児は抵抗力が弱く、結核菌に感染すると重症化しやすいため、予防接種を行うことが重要です。生後 1 歳までには、必ず BCG ワクチンを接種するようにしましょう。
(予防接種については、お住まいの市町村にお問い合わせください。)
また、結核の早期発見のため、職場や地域の健康診断を積極的に活用し、1 年に 1 回は健診を受けましょう。

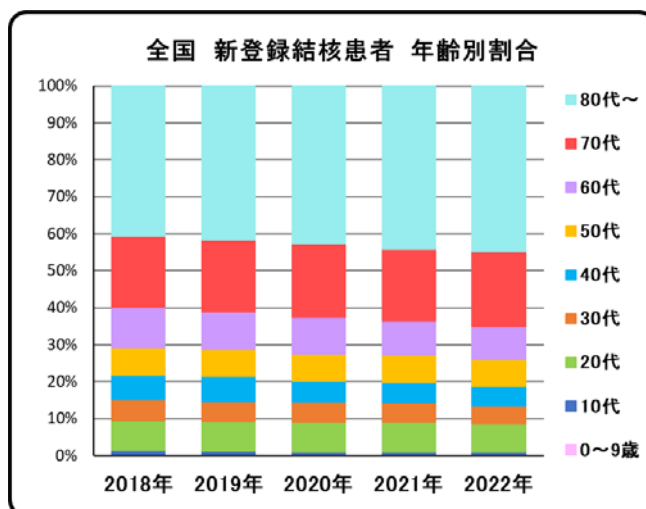
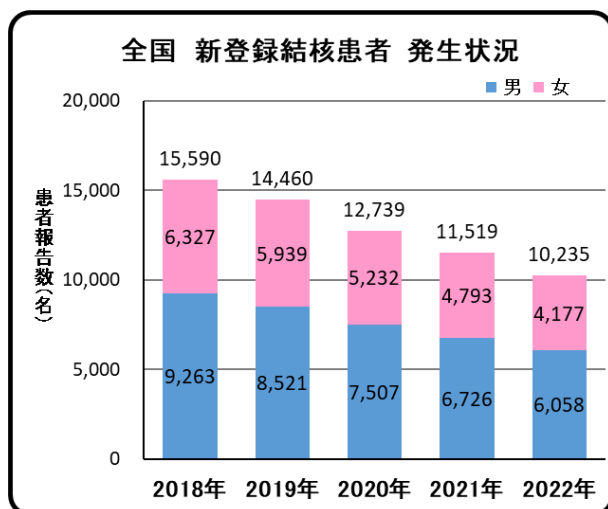
<一般向け> [結核とは？\(公益財団法人 結核予防会 結核研究所\)](#)

<医療従事者向け> [結核医療相談・技術支援センターを開設しています！\(岡山県 健康推進課\)](#)

結核について

【2022 年の全国の結核発生状況】

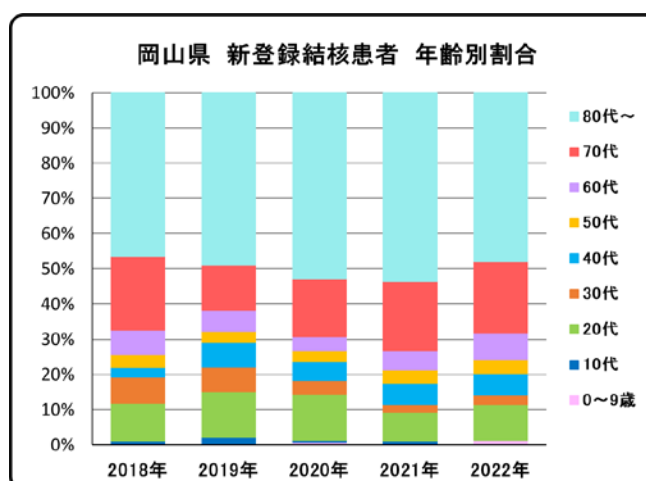
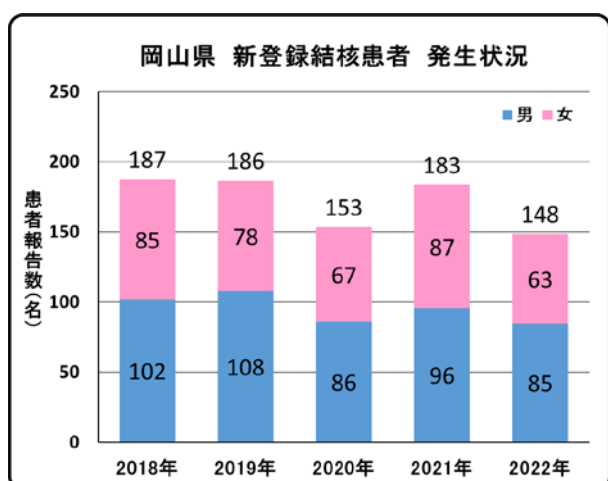
[結核登録者情報調査年報](#)によると、全国で新たに登録された結核患者（新登録結核患者）は10,235名で、2021年の11,519名から減少しました。年齢別では、70歳以上の新登録結核患者が全体の60%以上を占めており、患者が年々高齢化しています。日本は、2022年の結核り患率（人口10万あたり）が8.2と、前年から1.0ポイント減少しました。前年に中まん延国から低まん延国（10以下）となり、2022年も継続しています（なお、2020年からの結核り患率の減少は、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられています。）。都道府県別の結核り患率は、大阪府（12.7）が最も高く、次いで大分県（10.8）、長崎県（10.7）の順となっています。



【2022 年の岡山県の発生状況】

2022年の岡山県の新登録結核患者は148名で、2021年の183名から減少しました。年齢別では80歳以上が最も多く、70歳以上の高齢者が新登録結核患者の68%を占めています。

2022年の岡山県の結核り患率は7.9と、2021年の9.8から1.9ポイント減少し、2020年の8.1と同レベルでした。全国的に2020年以降の結核り患率の減少は新型コロナウイルス感染症の影響も考えられており、引き続き注意が必要です。



なお、2023年第36週まで（～9/10）の岡山県の報告数は、患者94名、無症状病原体保有者55名、その他1名となっています。

◆◆◆ 食中毒予防の 3 原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中です！

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう（腸管出血性大腸菌は、75℃、1 分以上の加熱で死滅します）。



0157 の電子顕微鏡画像
（国立感染症研究所）

[食中毒予防の 3 原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の 6 つのポイント（厚生労働省）](#)

[家庭でできる食中毒予防の 6 つのポイント（厚生労働省作成チラシ）](#)

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	361	4.30	117	5.32	66	4.13	15	1.00	81	6.75	6	1.00	8	2.67	68	6.80
RSウイルス感染症	17	0.31	8	0.57	1	0.09	—	—	2	0.29	1	0.25	2	1.00	3	0.50
咽頭結膜熱	16	0.30	7	0.50	7	0.64	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	0.69	20	1.43	5	0.45	2	0.20	8	1.14	1	0.25	—	—	1	0.17
感染性胃腸炎	207	3.83	84	6.00	21	1.91	57	5.70	12	1.71	13	3.25	—	—	20	3.33
水痘	6	0.11	1	0.07	3	0.27	1	0.10	—	—	1	0.25	—	—	—	—
手足口病	75	1.39	21	1.50	8	0.73	4	0.40	30	4.29	—	—	—	—	12	2.00
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	14	0.26	7	0.50	3	0.27	2	0.20	1	0.14	—	—	—	—	1	0.17
ヘルパンギーナ	42	0.78	11	0.79	11	1.00	6	0.60	9	1.29	1	0.25	—	—	4	0.67
流行性耳下腺炎	6	0.11	4	0.29	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	3	0.75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	361	4.30	117	5.32	66	4.13	15	1.00	81	6.75	6	1.00	8	2.67	68	6.80
咽頭結膜熱	16	0.30	7	0.50	7	0.64	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	0.69	20	1.43	5	0.45	2	0.20	8	1.14	1	0.25	—	—	1	0.17
感染性胃腸炎	207	3.83	84	6.00	21	1.91	57	5.70	12	1.71	13	3.25	—	—	20	3.33
水痘	6	0.11	1	0.07	3	0.27	1	0.10	—	—	1	0.25	—	—	—	—
手足口病	75	1.39	21	1.50	8	0.73	4	0.40	30	4.29	—	—	—	—	12	2.00
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	42	0.78	11	0.79	11	1.00	6	0.60	9	1.29	1	0.25	—	—	4	0.67
流行性耳下腺炎	6	0.11	4	0.29	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	3	0.75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2023年 第36週 2023/09/04～2023/09/10)

疾病名	合計 -6ヶ月-12ヶ月			1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	361	2	1	5	12	18	18	21	22	24	20	27	114	23	16	13	14	5	4	-	2

疾病名	合計 -6ヶ月-12ヶ月			1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	17	4	3	3	1	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	16	-	1	4	2	2	2	-	2	-	-	1	2	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	-	-	3	-	2	8	5	8	4	3	2	2	-	-
感染性胃腸炎	207	4	11	35	22	14	15	18	29	8	8	1	20	2	20
水痘	6	-	-	-	3	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-
手足口病	75	4	7	22	18	7	11	3	1	1	-	-	1	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	14	1	3	7	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	42	-	1	15	11	5	4	2	1	2	-	-	1	-	-
流行性耳下腺炎	6	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	3	-	-

疾病名	合計 -6ヶ月-12ヶ月			1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

保健所別

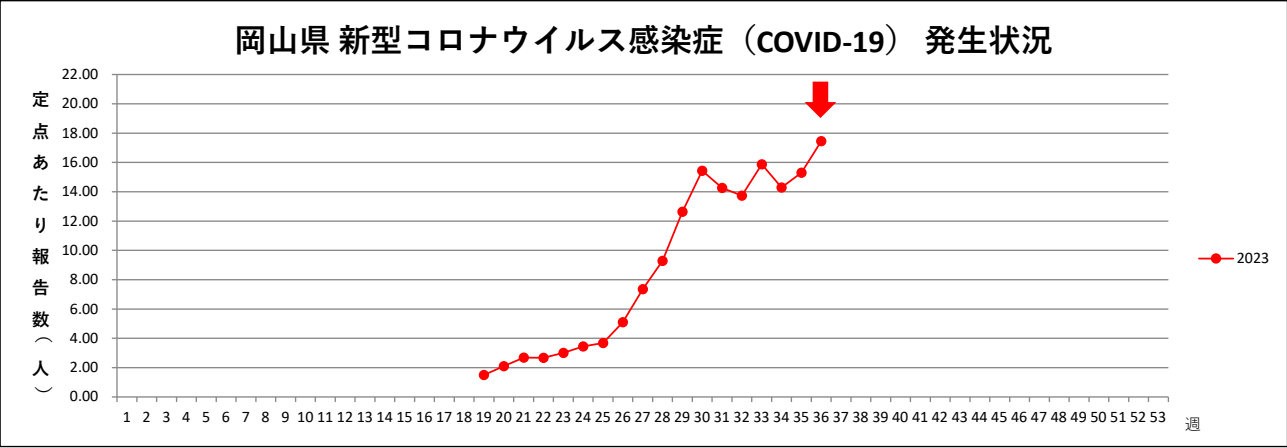
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	1,466	17.45	310	14.09	375	23.44	180	12.00	340	28.33	96	16.00	42	14.00	123	12.30

（ - : 0 or 0.00 ）

年齢別

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	1,466	12	18	20	21	15	22	31	31	28	49	43	205	153	126	136	131	125	94	102	104

（ - : 0 ）



全数把握 感染症患者発生状況

2023 年 36週

分類	疾病名	2023		2022	疾病名	2023		2022	疾病名	2023		2022
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	3	150	246	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	－	腸管出血性大腸菌感染症	2	71	66
	腸チフス	－	1	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	1	2	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	－	－
	エキノコックス症	－	－	－	エムポックス ※2	－	－	－	黄熱	－	－	－
	オウム病	－	1	1	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－
	キャサヌル森林病	－	－	－	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－
	コクシジオイデス症	－	－	－	ジカウイルス感染症	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	3	4
	腎症候性出血熱	－	－	－	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－
	炭疽	－	－	－	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	1	4
	デング熱	－	－	3	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－
	ニパウイルス感染症	－	－	－	日本紅斑熱	1	9	9	日本脳炎	－	－	－
	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－
	ブルセラ症	－	－	－	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－
	発しんチフス	－	－	－	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	2
	野兔病	－	－	－	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－
	リフトバレー熱	－	－	－	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	2	35	47
	レプトスピラ症	－	－	－	ロッキーマウンテン紅斑熱	－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	7	10	ウイルス性肝炎	－	3	1	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ※2	－	15	23
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	－	1	－	急性脳炎	－	6	10	クリプトスポリジウム症	－	－	－
	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	－	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	4	5	後天性免疫不全症候群	－	3	6
	ジアルジア症	－	1	－	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	7	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－
	侵襲性肺炎球菌感染症	－	19	22	水痘(入院例に限る。)	－	5	4	先天性風しん症候群	－	－	－
	梅毒	5	201	197	播種性クリプトコックス症	－	1	3	破傷風	－	2	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	－	－	－	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	2	1	百日咳	1	20	17
	風しん	－	－	1	麻しん	－	－	－	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－
※1	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	－	85,871	392,782		－	－	－		－	－	－

※1 新型インフルエンザ等感染症として2023年5月7日までに届出された患者数

※2 2023年5月26日付けで、以下の疾病の名称が変更になりました。
「サル痘」 → 「エムポックス」
「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」 → 「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」

